

**子ども食堂と香取市の  
更なる連携を**



まえだ まさひろ 議員  
前田 誠之 議員

**Q** 市内の子ども食堂とはどのように連携しているのか。

**A** 市は、それぞれの子ども食堂の活動状況や運営方法など、情報交換の場を提供しています。

**Q** かとりフードパントリーとはどのように連携していく予定か。

**A** 子ども食堂の運営団体は、かとりフードパントリーや民間団体が運営するフードドライブ等との連携を図るため、香取市子ども食堂等担当者連絡会を開催しています。

**Q** これから子ども食堂を始めたい団体や個人への開設の支援はどのように考えているのか。

**A** 市は、開設の相談、情報提供を行います。

**Q** 子ども食堂や苦しい状況にある子どもへの応援メッセージを伊藤市長からいただきたい。

**A** 地域住民と世代を超えて交流できる場として、子ども食堂は子どもたちの貴重な居場所であると考えます。今後も、全体的に笑顔になれる子ども食堂の運営をサポートしたいと思えます。

**Q** 認知症になっても安心できる香取市を

**A** 地域で認知症を包摂する地域づくりが重要だと考えるが認識は。

**Q** 地域で認知症を包摂する地域づくりが重要だと考えるが認識は。

**A** 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、認知症高齢者に対する事業の充実を図り、地域で支える仕組みづくりを推進していくことが必要であると認識しています。

**Q** 市内で現在の認知症の早期発見の政策はどのようなものがあるか。

**A** 早期発見を目的として実施している香取市徘徊高齢者等見守りシール交付事業などがあります。



ふじき ひろのり 議員  
藤木 裕士 議員

**黒部川の環境整備を**

**Q** 現在、黒部川の新田橋から大橋付近まで外来種の水草が繁茂している。黒部川は一級河川、県の管理となるが外来種の水草に対し、市で何かできることはないのか。

**A** 県管理の河川であるため、市として水草を駆除することは難しいと考えますが、支流となる市管理の河川や水路などでも繁茂の状況が確認されていることから、県との情報共有を図り、連携した水草の駆除を行い河川の状況回復を図ります。



黒部川の光景

**Q** 黒部川の土砂に対する、県への要望の内容は。

**A** 市として、知事と市長長との意見交換会や香取土木事務所との調整会議等において、県へ堆積土のしゅんせつ要望を行っています。今後、大規模な事業として取り組んでいただく内容で要望してまいります。

**全国レガッタの誘致**

**Q** 誘致にあたり、より一層水上スポーツを盛り上げる必要があると思うが、市の考えは。

**A** 黒部川では、香取市民レガッタに代表されるローイングやカヌーなどの水上スポーツが盛んであり、年間を通じて各種クラブが活動を行っています。水上スポーツに適した環境をPR動画などにより全国に発信するとともに、各種大会の開催をはじめ、競技人口の拡大や競技団体の合宿の誘致に向け、必要な環境整備など今後も積極的に推進します。

**Q** 認知症理解促進のために各学校に認知症の理解を深める講座が必要ではないか。

**A** 認知症の理解を深め、地域の中で支援者として活躍していただくよう認知症サポーター養成講座を市内小中学校や高等学校で開催しています。

**Q** 9月のアルツハイマー月間のPRなど、コンパスで行ったように周知のための広報が必要。介護予防も含めてより広報力を入れるべきではないか。

**A** 今後、民間事業所等関係機関と協力しながら周知活動に力を入れていきます。

**Q** 伊藤市長の認知症対策への思いを伺いたい。

**A** 当事者の方が住み慣れた地域で生活を続けられるような香取市をつくりたいと考えます。国が目指す共生社会の実現を推進する施策を見極めながら、現在行っている認知症施策をさらに充実していきます。

**Q** 香取市民レガッタと同時開催イベント(黒部水際BOAT SESSION)を始めたい。

**A** イベントは、水上スポーツの振興、子ども向けボート教室、クラブチーム設立に向けイベントを通じてボートに興味を持ってもらい、5年後以降の全国大会誘致を目指す企画に賛同した有志の皆さんが開催したものです。

**Q** 全国大会を成功させるには、黒部水際BOAT SESSION(市民ボラティア)の関係者も大会に係っていく必要があると考える。大会に自費随行の要望がある市の対応は。

**A** 全国市町村交流レガッタの出場クルーの随行は、慣例として参加市町村の職員が行っています。職員以外のレガッタ関係者が開催状況を視察することは、香取市大会の成功に寄与するものと考えられ、多くの方々が実際の会場に足を運べるよう考慮します。